

令和 8 年度 国語 科 シラバス

科目	現代の国語	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	増補新版「現代の国語」(数研出版)				
補助教材等	・増補新版 現代の国語準拠ワーク (数研出版)・意味から学ぶ頻出漢字 3000 (第一学習社)・改訂版プロGRESS現代文総演習基本編(いいずな書店)				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 評論文を読むときには、論旨を正確に把握することを意識して読みましょう。
- 論旨を早く正確につかむためには、読み慣れることが必要です。普段から新聞・小説・韻文についても広く興味を持ち読書をしましょう。
- 授業の前には単元で扱う題材を読み、分からない語句を調べておきましょう。また、分かりにくい表現や記述をチェックしたうえで授業にのぞんでください。
- まず自分の「読み」をしましょう。その「読み」があつてこそ、授業で確認される「読み」との照合が図られ、自分の「読み」の深化につながります。どの語句や記述に着目したのか、構成をどのように捉えたのか、筆者の主張や論旨などをどのように捉えたのか、自分の「読み」を確認する機会が授業です。
- 周りの仲間との意見交換や協働学習が自分の見識を広げます。ペア・グループワークの機会を大いに活用しましょう。
- 日々の学習の基本として、予習・復習の習慣をつけましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会で課題を発見し解決に導く国語の知識や技能を身に付けて適切に使うことができる。	他者と共に論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めることができる。	言葉の価値への認識を深めるとともに、自分の考えを相手に伝えるように言葉を通して伝え、積極的に他者や社会と関わろうとする。
主な評価方法	・漢字小テスト ・定期考査 ・ワークブック、ワークシートなどの記述内容	・定期考査 ・ワヘクブック、ワークシート記述内容 ・発表時の内容	・授業中の行動観察 ・ペア、グループワーク時の行動観察 ・ふりかえりの記述内容確認、分析

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「読む」と「書く」	「ささやかな日常」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・文章中の抽象的な表現について説明し、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。(a) ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b)
5	「社会と文化」	「コミュニケーション能力とは何か」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・文章中の抽象的な表現について説明する。 ・筆者の言う「知性的な人」について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。(a) ・目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりする。(b)
6	「社会」と「文化」	「水の東西」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と西洋の「水」に対するとらえ方の違いを整理する。 ・「水」の他に、日本と西洋とで感じ方や考え方の違いを感じさせるものをあげ、その違いをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b) ・筆者の意見を踏まえた事例について考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。(c)
7 8	「近代化と人間」	「ポスト・プライバシー」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・文章中の抽象的な表現について説明する。 ・筆者の主張を、本文全体を踏まえて具体的に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b) ・「書く」読み手の理解が得られるよう、論理の展開、重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。(b)
9	「新しい視点」	「政治的思考」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・「政治的思考」にとって大切なこと、「政治的思考」においてとるべきでない態度について説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会において理解、表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(a) ・筆者の意見や参考資料をもと

				する。	に実社会の問題について積極的に考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。(c)
1 0	「わたし」 の多様性	「一人の中 にある無限」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・文章中の抽象的な表現について説明する。 ・筆者の主張を、本文全体を踏まえて具体的に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。(a) ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。(b)
1 1	「批評の方法」	『羅生門』 の最後の一文」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・本文の批評文としての構成を捉え、『羅生門』についての筆者の考え、立場を理解する。 ・『羅生門』について批評文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。(b) ・作品について自分の考えを持ち、文章の構成に注意しながら積極的に批評文を書こうとしている。(c)
1 2	「ことばの 働き」	「ものごと とば」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・文章中の抽象的な表現について説明する。 ・日本語と英語の単語を比較し、認識される対象にどのような違いがあるかを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。(a) 「読み」文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b) ・筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。(c)
1	「技術・社 会」	「未来世代 への脅威」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・文章中の抽象的な表現について説明する。 ・筆者の主張を、本文全体を踏ま 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み」文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b) ・文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理

				えて具体的に説明する。	解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。
2	「認識の枠組み」	「浪費を妨げる社会」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・文章中の抽象的な表現について説明する。 ・自分にとっての「贅沢」とはどのようなものか、また、その「贅沢」を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(a) ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(b)

令和 8 年度 国語 科 シラバス

科目	言語文化	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年・全クラス
使用教科書	改訂版「言語文化」(数研出版)				
補助教材等	・改訂版言語文化準拠ワーク(数研出版)・〈新版〉理解を深める核心古文単語 351(尚文出版)・改訂版これでわかる明快古典文法(いっずな書店)・改訂版これでわかる明快古典文法必修ノート(いっずな書店)・新明説漢文(尚文出版)・新明説漢文ノート(尚文出版)・四訂版プロGRESS古典総演習(いっずな書店)				

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会活動に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【知識及び技能】</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○まず初めに古典作品を音読し、仮名遣いや表現、独特のリズムに慣れ親しみましょう。</p> <p>○古文を理解するためには、基本的な古文単語を習得し、解釈に必要な古典文法の知識を確実に身につけることが大切です。分からない語句は古文単語帳活用等によりひとつずつ確実に確認するようにしましょう。古典文法は古典作品を読む中で、文法書を確認しながら身につけていきましょう。</p> <p>○古文世界の文化・生活習慣・ものの見方・考え方を現代と対比させ、生じる驚きや疑問を大切にしましょう。自分から疑問に思ったことを調べると、より古典世界に親しむことができるでしょう。</p> <p>○漢文は音読を通して漢文独特の言い回しやリズムをまず耳から身につけましょう。そのうえで書き下し文に直したり、重要句形をおさえたり、語彙を増やすことが漢文読解につながります。</p> <p>○学習をする中で、古文世界と漢文世界の思想面・文化面での密接な関わりやものの見方・考え方の相違点が見えてきます。</p> <p>○日々の学習の基本として、予習・復習の習慣をつけましょう。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯を通して実社会で活用できる国語の知識や技能を身に付け適切に使っていると同時に、我が国の言語文化を深く理解している。	他者と共に論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、自分の考えを相手に伝えるように言葉を通して伝え、積極的に他者や社会と関わろうとしている。
主な評価方法	・古典文法小テスト ・定期考査 ・ワークシート記述内容	・定期考査 ・ワークシート記述内容 ・発表時の内容	・授業中の行動 ・ペア、グループワーク時の行動 ・ふりかえりの記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「説話」	「言語文化と古文」 「児のそら寝」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し音読する。 ・現代語と異なる意味の語句を確認し、現代語訳する。 ・本編の面白味、例えば、児が「寝たるよし」をした理由、僧たちが「笑ふこと限りなし」となった理由を話し合い、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 (a) ・「読み」作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(b)
5	「説話」	「柿の木に仏現ずること」 「絵仏師良秀」 「地獄変」(概略)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い・語句・用言を確認し現代語訳をする。 ・良秀の人物像を捉え、作品内容を理解する。 ・「地獄変」の概略と比較しながら「絵仏師良秀」との共通点・異なる点についてワークシートにまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 (a) ・「絵仏師良秀」と「地獄変」との共通点・異なる点を、言葉を通して他者に伝えようとしている。(c)
6	「随筆」 『徒然草』 『枕草子』	「つれづれなるままに」 「雪のおもしろう降りたりし朝」 「春はあけぼの」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した知識を活用して、現代語訳する。 ・作者が「かばかり」のエピソードで「亡き人」を語ったのはなぜか考える。 ・「春はあけぼの」で作者がよい評価を与えていない事柄と、その理由を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 (a) ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(b)
7 8	「漢文」	「言語文化と漢文」 「入門一・二」 「漢文チェックポイント」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文と日本語の歴史的・文化的つながりについて理解する。 ・漢文の訓読について理解する。 ・返り点に従って読む順を確認し、書き下し文を書く。 ・再読文字や置き字を含む短い例文を書き下し文にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の言語文化の特質や日本の文化と当時の中国の文化との関係について理解することができる。(a) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。(b)
9	「故事」	「漁夫之利」 「矛盾」 「狐借虎威」	8	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文作品それぞれの内容を捉える。故事成語が実際の日本語の文章や会話においてどのような場面 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて

		「朝三暮四」		で用いられるか、他の文章も挙げて、辞書やICT機器を利用して用例を調べる、発表する。	理解することができる。(a) ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、表現の仕方を工夫している。(b)
10	「歌物語」	「芥川」 「東下り」	8	・歴史的仮名遣い・語句・用言・助動詞・助詞について確認し現代語訳をする。 ・和歌の修辞について理解する。 ・「芥川」と「東下り」で読まれている和歌の修辞の効果と込められている思いについて考え、ワークシートにまとめる。	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(a) 「芥川」と「東下り」で読まれている和歌の修辞の効果と込められている思いについて、自らの学習を調整しながら見通しをもってまとめようとしている。(c)
11	「物語」	「なよ竹のかぐや姫」 「天人の迎へ」	6	・歴史的仮名遣い・語句・用言・助動詞・助詞について確認し現代語訳をする。 ・敬語表現を探し、誰から誰への敬意かを的確に捉える。 ・敬語表現をもとに、人物相互の関係性を捉える。	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(a) ・序「漂泊の思ひ」と「平泉」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(b)
12	「和歌」	「万葉集」 「古今和歌集」 「新古今和歌集」	6	・それぞれの歌について、どのような感動・心情が歌われているか考える。 ・和歌の修辞法の理解を深める。 ・それぞれの歌においてどのような新しい世界が創出されているかを考え、文章化する。	・「読み」作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(b) ・「書く」自分の考えが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。(c)
1	「漢詩」と日本の古典文学	「静夜思」 「涼州詩」 「送元二使安西」 「月夜」 「香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁」 「雪のいと」	6	・漢詩の歴史的背景・形式・構成・規則について理解する。 ・それぞれの漢詩の背景・形式・構成を捉え、詩人の思いを読み取り作品を解釈する。 ・漢詩の内容をふまえた古典文学の文章を併せて鑑賞する。	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。(a) ・漢詩の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(b) ・漢詩と日本の古典文学との関連について、理解できているか(b)

		高う降りたるを」			
2	「古典」と「近代小説」	「羅生門」「今昔物語集」より2編	6	「今昔物語集」の2編と「羅生門」の内容を比較し、「羅生門」において作者の文学性がどのような点に反映されているかを比較し、発見したことを書いてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み」内容を的確に把握し、比較することができるか。(b) ・「書き」学習課題に沿って自分の考えを文章にしようとしている。(c)

令和 8 年度 地歴公民 科 シラバス

科目	地理総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 年全クラス
使用教科書	「わたしたちの地理総合」（二宮書店）				
補助教材等	詳細現代地図（二宮書店）、わたしたちの地理総合ワークブック（二宮書店）				

1 学習の到達目標

地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○地理用語は教科書に出てくる範囲でいいので、授業前後に調べておく。
 ○授業では地理的特徴と人々の暮らしの関係性について思考を深めること。
 ○自分が理解したことや、考えたことを伝える努力をし、思考力を鍛え、表現力を磨くこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨			
主な評価方法	・定期考査	・定期考査	・授業での課題

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	第1章	教科書	22	◎地図とGISの活用 1, 球面上の世界 2, 国家の領域と領土問題 3, 国内や国家間の結びつき 4, 日常生活の様々な地図	(a)(b)(c)球体としての地球, 時差と生活, おもな図法による世界地図, 地図の表現を理解しているか。 (a)(b)(c)身の回りにある地図を題材にして, 地図を用いた情報伝達の方法を習得しているか。紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し, 活用しているか。
7 8 9	第3章	教科書	24	◎地球的課題と国際協力 1, 人口(a)(b)(c)食糧問題 2, 居住(a)(b)(c)都市問題	(a)(b)(c)地球規模でおこっている問題について, 系統地理的視点と地誌的視点を組み合わせながら考察し

10				3, 資源(a)(b)(c)エネルギー問題 4, 地球環境問題	ているか。 (a)(b)(c)主題図や統計資料から解決するための政策や事例に触れながら、方策を構想しているか。 (a)(b)(c)国際協力の必要性や日本とのつながりについて、考察しているか。
11 12 1 2	第4章	教科書	24	◎生活圏の諸課題 1, 自然環境と防災 2, 持続可能な地域づくり	(a)(b)(c)自然災害や都市型災害などが発生することを世界的な視野からとらえ、その要因と特徴、防災や減災への取り組みや課題を考察しているか。 (a)(b)(c)地域調査の一連の手順を理解し、各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想しているか。

令和 8 年度 地理歴史科 シラバス

科 目	歴史総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	「高等学校 歴史総合」（第一学習社）				
補助教材等	「高等学校 歴史総合」（第一学習社） 準拠ノート 「新詳 歴史総合」（浜島書店） 資料集				

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方、課題を追及し解決する活動を通し、広い視野にたち、グローバル化する国際社会を主体的に生きるため、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を身につける。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○きちんとした態度で授業を受け、復習をする。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨			
主な評価方法	・定期考査（知識問題）	・定期考査 （資料読解・論述問題） ・課題プリント	・授業態度、出席など

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4～7 月	第1部 歴史の扉 第2部 第1章 1. 18世紀のアジアの繁栄 2. 産業革命と市民革命	教科書など	25	・複数の資料の関係や異同に着目し、資料から読み取った情報の意味、意義、特色などを考察する。 ・18世紀の日本やその他のアジアにおける経済活動や社会の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを考察し表現して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する ・アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察し表現して、工業化と世界市場の形成を理解する。	学 習 評 価 に 同 じ

<p>8～11 月</p>	<p>3. イギリスの繁栄と国民国家の 拡大 4. アジア諸国の変貌と日本の 開国</p>		<p>25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察し表現して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考察し表現して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する 	
<p>12～2 月</p>	<p>5. 帝国主義の発展 第2部 第2章 1. 第一次世界大戦と大衆社会 2. 経済危機と第二次世界大戦</p>		<p>20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを考察したり表現したりして、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを考察したり表現したりして、国際協調体制の動揺を理解する。 	

令和 8 年度 数学 科 シラバス

科目	数学 I	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	数研出版 新編 数学 I				
補助教材等	数研出版 教科書傍用 3 T R I A L 数学 I + A				

1 学習の到達目標

数学 I の学習を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 復習に力を入れ、毎日、継続して学習をする習慣をつけましょう。
学習した内容が身についているか問題を解いて確認するとともに、分からないところをそのままにしない姿勢を大切にしましょう。
- せっかく身についたはずのことも、時間が経つと忘れてしまうのは自然なことです。
繰り返し粘り強く学習し、定着を図りましょう。
- 答えを確認するときは、ただ結論があっているかを確認するだけでなく、過程まで確認するようにしましょう。間違いの原因を探ると、新たな発見があるかもしれません。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したたり、表現したりする能力が身につけるようにする。	数や式を多面的にみたり、目的に応じて適切に変形したりする力、論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現して、その特徴を表・式・グラフ等に表し、問題解決をする力を養う。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査・ ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内の取り組みの様子 ・ 提出物の記載内容 等・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
---	----	----	----	------	------

4 5	数学 I 第1章 数と式	教科書 完成ノート	<p><第1節 式の計算></p> <p>1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解</p> <p><第2節 実数></p> <p>4 実数 5 根号を含む式の計算</p> <p><第3節 1次不等式></p> <p>6 不等式の性質 7 1次不等式 8 1次不等式の応用 9 絶対値を含む方程式・不等式</p> <p><学習のねらい></p> <p>・式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字に置き換えたりするなどして、既に学習した計算方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形する力を養う。(第1節)</p> <p>・中学までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系について理解を深める。その際、実数が四則演算について閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。(第2節)</p> <p>・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を養う。(第3節)</p>	<p>(a) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次の展開や因数分解の公式を適切に用いて計算できる。(第1節) ・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の計算をすることができる。(第2節) ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。(第3節) <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり、目的に応じて適切に式変形したりすることができる。(第1節・第2節) ・日常の現象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。(第3節) <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数と式の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。
6 ~ 9	数学 I 第3章 2次関数	教科書 完成ノート	<p><第1節 2次関数とグラフ></p> <p>1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ</p> <p><第2節 2次関数の値の変化></p> <p>3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定</p> <p><第3節 2次方程式と2次不等式</p>	<p>(a) 知識・技能、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。(第1節) ・2次関数の最大値や最小値を求めることができる。(第2節) ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等

			<p>></p> <p>5 2次方程式</p> <p>6 2次関数のグラフとx 軸の位置関係</p> <p>7 2次不等式</p> <p><学習のねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。(第1節) ・2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。(第2節) ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。(第3節) 	<p>式の解を求めることができる。(第3節)</p> <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察できる。(第1節、第2節) ・2つの数量の関係に注目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできる。(第3節) <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
10 11	数学 I 第2章 集合と命題	教科書 完成ノート	<p>9</p> <p>1 集合</p> <p>2 命題と条件</p> <p>3 命題とその逆・対偶・裏</p> <p>4 命題と証明</p> <p><学習のねらい></p> <p>集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>(a) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
12 1	数学 I 第4章 図形と計量	教科書 完成ノート	<p>21</p> <p><第1節 三角比></p> <p>1 三角比</p> <p>2 三角比の相互関係</p> <p>3 三角比の拡張</p> <p><第2節 三角形への応用></p> <p>4 正弦定理</p> <p>5 余弦定理</p> <p>6 正弦定理と余弦定理の応用</p>	<p>(a) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋭角の三角比の意味と相互関係を理解している。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。(第1節) ・正弦定理や余弦定理について三

			<p>7 三角形の面積 8 空間図形への応用</p> <p><学習のねらい> 三角比の基本的な性質を理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を用いて問題解決をする力を養う。(第1節)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理・余弦定理などを活用して問題を解決したり、する力を培う。 	<p>角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理や余弦定理などを用いて、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。(第2節) <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や、他の事象との関連を考察したりすることができる。 <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え、科学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
2	数学 I 第5章 データの分析	教科書 完成ノート	<p>1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間関係 6 仮説検定の考え方</p> <p><学習のねらい> ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。</p>	<p>(a) 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味やその使い方を理解している。 ・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの散らばり具合や、傾向を数値化する方法を考察できる。 ・目的に応じて複数のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決

					<p>にそれらを活用したり、粘り強く考え 数学的論拠に基づき判断しようとし たりしている。</p> <ul style="list-style-type: none">・問題解決の過程を振り返って考察 を深めたり、評価・改善しようとしたり している。
--	--	--	--	--	---

令和 8 年度 数学 科 シラバス

科 目	数学A	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	数研出版 新編 数学A				
補助教材等	数研出版 教科書傍用 3 T R I A L 数学 I + A				

1 学習の到達目標

数学Aの学習を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 復習に力を入れ、毎日、継続して学習をする習慣をつけましょう。
学習した内容が身についているか問題を解いて確認するとともに、分からないところをそのままにしない姿勢を大切にしましょう。
- せっかく身についたはずのことも、時間が経つと忘れてしまうのは自然なことです。
繰り返し粘り強く学習し、定着を図りましょう。
- 答えを確認するときは、ただ結論があっているかを確認するだけでなく、過程まで確認するようにしましょう。間違いの原因を探ると、新たな発見があるかもしれません。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したたり、表現したりする能力が身につけるようにする。	数学的な考え方をもとにして、直感的に考察したり、事象を的確に表現し合理的に判断する力、論理的に考え表現する力を養う。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査・ ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内の取り組みの様子 ・ 提出物の記載内容 等・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
---	-----	-----	-----	---------	---------

4 ～ 9	数学A第1章 場合の数と 確率	教科書 完成ノート	36 <第1節 場合の数> 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組み合わせ <第2節 確率> 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値 <学習のねらい> 場合の数や確率を求めるときの基本的な考え方について理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	(a) 知識・技能 ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や、和の法則、積の法則など数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に、順列および組み合わせの意味を理解し、順列の総数や組み合わせの総数を求めることができる。(第1節) ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。(第2節) (b) 思考・判断・表現 ・事象の構造などに注目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。(第1節) ・確率の性質や法則に注目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり期待値を意思決定に活用したりすることができる。(第2節) (c) 主体的に学習に取り組む態度 ・事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。
10 ～ 2	数学A第2章 図形の性質	教科書 完成ノート	28 <第1節 平面図形> 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形	(a) 知識・技能、 ・三角形、円に関する基本的な性質について理解している。 (第1節) ・空間図形に関する基本的な性質

			<p>5 円と直線 6 2つの円 7 作図</p> <p><第2節 空間図形></p> <p>8 直線と平面 9 空間図形と多面体</p> <p><学習のねらい> 平面図形・空間図形の理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>を理解している。(第2節)</p> <p>(b) 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係や、既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見出したり、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 <p>(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。
--	--	--	---	--

令和 8 年度 理科 シラバス

科目	物理基礎	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年 1.~6 部
使用教科書	数研出版 物理基礎				
補助教材等	数研出版 フォローアップドリル物理基礎、リードα				

1 学習の到達目標

日常生活で使われている力・運動・エネルギー・波・電気など、物理的な事象について考察し、その基本的な原理を理解する。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○授業範囲はその日のうちに復習する。あわせて、問題集の関連単元の基本および応用問題を解く。
 ○普段から、日常生活で起きる様々な現象や事物について興味関心を持つ。
 ○興味や疑問に思ったことはそのままにせず、仮説を立てて・検証していく姿勢を持ってほしい。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	物理現象への理解を深め、科学的に探究するために必要な知識、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業や家庭学習において、課題やレポート等の取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	運動の表し方	教科書 問題集 授業プリント	6	速度 加加速度	(a) 物体の速さの式を理解している。 $x-t$ 図、 $v-t$ 図を理解できている。直線上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 (b) 等速直線運動する物体の運動のようすについて説明できる。動く観測者から見た場合の、観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。 (c) 日常の運動から、速さ、時間、進む距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。 (a) 加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができる。 等加速度直線運動する物体のようすについて説明で

					<p>きる。</p> <p>(b) 加速度の意味・表し方, またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し, それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。</p> <p>(c) スタート直後の速さの比較によって, 加速度を学ぶ意味を理解しようとしている。</p>
5	運動の表し方	教科書 問題集 授業プリント	8	落体の運動	<p>(a) 自由落下や鉛直投射において, 式の運用ができる。水平投射は鉛直方向には自由落下, 水平方向には等速直線運動をしていることを理解している。</p> <p>(b) 自由落下する物体のようすについて説明できる。重力加速度の意味を正しく理解し, 落下する物体の運動のようすを考えることができる。</p> <p>(c) 日常の運動から, 落下する物体の運動に興味をもち, 自由落下する物体の運動, 鉛直投射された物体の運動の表し方を理解しようとしている。</p>
6	運動の法則	教科書 問題集 授業プリント	8	力とそのはたらき 力のつり合い	<p>(a) 重力, 垂直抗力, 摩擦力, 糸が引く力, 弾性力について, 理解できている。</p> <p>(b) フックの法則とばね定数の意味を理解し, グラフからばね定数を読み取ることができる。重力の大きさは物体の質量と重力加速度の大きさとの積であり, 運動の状態によらないことを説明できる。</p> <p>(c) 見ること, 触ることができない「力」に対して, どのようにして力の存在がわかるのか, また力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている</p> <p>(a) 力がベクトル量であることを認識し, 力の合成や分解ができる。注目する物体にはたらく力が指摘でき, つりあいの式が立てられる。作用・反作用の 2 力とつりあいの 2 力を区別して考えることができる。</p> <p>(b) 3 つの力がはたらいてつりあうときの力の関係を確認でき, 理解できている。</p> <p>(c) 力が合成・分解して表されることに興味をもち, 「力がつりあう」とはどういうことかを理解しようとしている。「作用・反作用」と「つりあい」の 2 力との違いについて, 考えようとしている。</p>
7	運動の法則	教科書 問題集 授業プリント	6	運動の法則 摩擦力	<p>(a) 物体が力を受けるとき(あるいは受けないとき), 運動状態はどのようになるか, 逆に, 物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる。さまざまな運動をしている物体について, 運動方程式を立てて考えることができる。</p> <p>(b) 慣性の法則, 運動方程式が理解でき, 問題解決にあたって式の運用が正しくできる。運動方程式を用いて, 物体の運動を説明できる。</p> <p>(c) 物体の運動状態は, 受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち, 理解しようとしている。</p> <p>(a) 注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか, また最大摩擦力の大きさは 2 物体間の面の状態を表す静止摩擦係数 μ と, 垂直抗力 N との積で表される</p>

				浮力	<p>ことを理解している。静止摩擦力を用いた力のつりあいの式を立てたり、動摩擦力を用いた運動方程式を立てることができる。</p> <p>(b) 摩擦力がどのような力かを理解し、運動を妨げる向きにはたらく運動について考えることができる。物体にはたらく摩擦力について説明できる。</p> <p>(c) 摩擦力がないときと比較するなどして、どのようなときに静止摩擦力や動摩擦力が現れるか、またそのときの物体の運動について、興味・関心をもち考えようとしている。</p> <p>(a) 圧力を求める式を理解できている。水圧を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。</p> <p>(b) 水中にある物体には、どのような水圧が加わるか、またどのような浮力がはたらくかを正しく理解し、説明できる。</p> <p>(c) 日常の現象などを通して、水中や空気中で圧力があることに関心を寄せ、それらの圧力はどのようにしてはかることができるか、そもそも圧力とは何か、ということを考えようとしている。</p>
8	仕事と力学的エネルギー	教科書 問題集 授業プリント	2	仕事	<p>(a) 仕事、仕事率を計算して求めることができる。物体に対して力がはたらいていても、仕事が 0 のときもあり、それがどのようなときであるかを理解している。「仕事の原理」を仕事を計算して求めたものを比較することにより、理解している。仕事率Pは「W/t」だけでなく、「Fv」でも求められることを理解している。</p> <p>(b) 物体に対して力がはたらいていても、仕事が 0 のときもあり、それがどのようなときであるかを説明できる。「仕事の原理」を理解し、道具を用いたときに必要な仕事はどうなるかを説明できる。</p> <p>(c) 日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し、物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。</p>
9	仕事と力学的エネルギー	教科書 問題集 授業プリント	8	運動エネルギー 位置エネルギー	<p>(a) 運動エネルギーが $1/2 \times mv^2$ であることを理解している。運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解している。</p> <p>(b) 運動エネルギーがどのようなものかを理解し、説明できる。運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを用いて、物体の運動を説明できる。</p> <p>(c) 運動している物体は、どのようなエネルギーをもっているかについて興味をもち、考えようとしている。</p> <p>(a) 重力による位置エネルギーを計算することができる。弾性力による位置エネルギーを計算することができる。物体が基準点まで移動するときに保存力がする仕事は、位置エネルギーであることを確認できる。</p>

				<p>(b) 状態が異なる場合の位置エネルギーを、比較して考えることができる。重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーについて説明することができる。</p> <p>(c) 位置エネルギーは、運動エネルギーのように動きがあり目立つものではないが、仕事をする能力を「秘めて」いることに興味をもち、理解しようとしている。</p>
10	仕事と力学的エネルギー	教科書 問題集 授業プリント	8	力学的エネルギーの保存 <p>(a) さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる。物体に保存力以外の力がはたらくとき、その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解している。力学的エネルギー保存則が成りたつための条件が整っているかどうかを判断できる(→保存力以外の力が物体に対して仕事をしない)。</p> <p>(b) 力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。力学的エネルギー保存則を用いて、運動する物体のもつ運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの変化のようすを説明することができる。</p> <p>(c) 力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、理解しようとしている。</p>
11	熱とエネルギー	教科書 問題集 授業プリント	6	熱と物質の状態 <p>(a) 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。物質が、固体→液体、液体→気体になる際の、熱のやりとりについて理解している。</p> <p>(b) 日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。水の状態図から情報を読み取り、日常的な事象について理由などを推測し、説明することができる。</p> <p>(c) ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとしている。</p>
12	熱とエネルギー	教科書 問題集 授業プリント	6	熱と仕事 <p>(a) 仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。熱機関と熱機関の効率について理解している。</p> <p>(b) 日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。不可逆変化とはどのような変化かを説明できる。</p> <p>(c) 熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとしている。</p>
1	波の性質	教科書 問題集 授業プリント	6	波と媒質の運動 <p>(a) 波の発生原理や基本事項を理解している。縦波と横波の違いを理解している。縦波を横波の形で表現できている。</p> <p>(b) 波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。波の基本事項について説明できる。与えられた情報を正しく読み取り、問いに答えられている。</p> <p>(c) 身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や</p>

					基本事項について理解しようとしている。
2		教科書 問題集 授業プリント	6	波の伝わり方	<p>(a) 定在波の生じるしくみを理解している。ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。</p> <p>(b) 定在波を発生させる条件を正しく理解し、説明できる。固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明できる。</p> <p>(c) 波が衝突や反射するときどのようなようになるか、興味を持って、自分の考えを述べることができる。</p>

令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	生物基礎	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	改訂版 高等学校 生物基礎				
補助教材等	改訂版 リードLight 生物基礎				

1 学習の到達目標

<p>1. 生物学的な事物・現象について実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を培う。</p> <p>2. 生物学的な原理・法則などについて、科学的・統計的な手法を取り入れ、生物学的に考察し、処理する能力を育てる。</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○前の時間の復習を行い、計画的に知識の整理と充実に心がけるようにする。</p> <p>○補助教材の問題集にしっかり取り組むことで定着が図られます。</p> <p>○自分が興味を持った分野に関連した一般書も読んでほしいと思います。大きな視野で生物を捉えることができるし、生物に関する知識や理解が幅広くなります。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生命現象への理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業や家庭学習において、課題やレポート等の取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
---	-----	-----	-----	---------	---------

4月	生物の多様性と共通性	教科書 問題集 授業プリント	6	生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。	生物が「細胞からできている」、「生命活動にはエネルギーが必要」、「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解している。 a 原核細胞と真核細胞の共通点と相違点を見いだすことができる。 b
5月	エネルギーと代謝	教科書 問題集 授業プリント	8	実験：顕微鏡の使い方を習得する。マイクロメーターを用いた長さの測定方法を習得する。 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。細胞の生命活動のエネルギーは ATP の形で供給されることを理解する。	マイクロメーターを用いて細胞などの大きさが測定できる。 bc ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解できる。 a 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 b
6月	呼吸と光合成 遺伝情報と DNA	教科書 問題集 授業プリント	8	呼吸や光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内に必要な化学反応が進行することを理解する。 DNA は 2 本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報は DNA の塩基配列にあることを理解する。	酵素の触媒作用と基質特異性について理解し説明できる。 b 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 a DNA の構造および塩基の相補性を理解する。 a DNA の構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などの DNA の構造の特徴を見いだすことができる。 b
7月	情報の複製と分配	教科書 問題集 授業プリント	6	DNA が、半保存的に複製されることを理解する。細胞周期の進行に伴って、DNA が正確に複製され、2 つの細胞に分配されることを理解する。 実験：DNA を抽出して生物が DNA をもつことを確かめる。	DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解できる。 a 細胞当たりの DNA 量と細胞数の関係のグラフから、特定の条件で細胞周期の各期の長さを推定できることに気づくことができる。 b 手順に基づいた抽出ができる。 bc
8月	遺伝情報の発現	教科書 問題集 授業プリント	2	タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。	DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解できる。 a
9月	遺伝情報の発現	教科書 問題集 授業プリント	8	個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。 タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	コドンが塩基 3 個の配列で 20 個のアミノ酸を指定している理由について考え、説明することができる。 b 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解できる。 a さまざまな生物とその遺伝子数を調べ、その生物の特徴と遺伝子数の関係についての自分の考えをまとめ、説明することができる。 c

10月	体内での情報伝達と調節	教科書 問題集 授業プリント	8	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。 実験:豚の内臓の観察 体内の内臓の作りを観察して、体内の器官の働きを理解する。	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解できる。a 身近な事例において、からだの状態がどのように変化するかを交感神経と副交感神経のはたらきに注目して考え、説明することができる。b 実際の器官に触れて器官の構造やはたらきを理解できる。bc
11月	体内環境の維持のしくみ	教科書 問題集 授業プリント	6	ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 実験:校内の樹木の観察 校内の樹木について葉の付き方・種子の特徴などを観察する。	自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解できる。a I型糖尿病とII型糖尿病の違いに基づいて、糖尿病の検査内容や治療方法について、自ら調べたり、考えたりすることができる。c 樹木による特徴の違いを理解するbc
12月	免疫のはたらき	教科書 問題集 授業プリント	6	からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。	自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解できる。a 抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考えることができる。b
1月	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	教科書 問題集 授業プリント	6	植生の成りたちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。	植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解できる。a 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。b 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解できる。a 特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを推測し、説明することができる。
2月	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	教科書 問題集 授業プリント	6	生態系の成りたちを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。 生態系がもつ復元力について理解する。人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。生態系の保全の重要性について理解する	生態系がどのように構成されているのかを理解できる。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を調べ、考察し、説明できる。bc

科目	体育	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 ・体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○原則として、全ての種目を履修・習得すること。長期間（概ね20日以上）の欠席及び見学は、医師による診断書の提出が必要になる場合があるので相談して下さい。</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習の仕方、運動を行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解している。 	<p>与えられた課題を解決するために論理的に考え、解決するために正しく判断できている。また、仲間と相談し、より良い解決に導こうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで運動の楽しさや喜びを味わおうとする。健康や安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト（記録計測、チーム戦績、技能の完成度） ・観察及び完成度 ・レポート等 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察及び完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察及び完成度 ・レポート等

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	体づくり運動 陸上競技 体育理論	ストレッチ ウォーキング 持久走 スポーツテスト	8	活動的な運動・静的な運動、ウォーキング・ジョッキング等により体力を高める。 持久走により、有酸素能力の向上に努める。 スポーツテストの実施により、自己の体力要素を把握する。	1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。
5 6	球技	男子 ソフトボール 女子 バレーボール	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
6 7	水泳 体育理論	クロール 平泳ぎ 体育編 スポーツの 発祥と発展	8	クロール・平泳ぎの基本的な技術を体得し、より長く泳げるようにする。 記録測定。 体育理論についてはスポーツの意義などについて知る。	
8 9	球技	男子 バレーボール 女子 ソフトボール	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
10	陸上競技	持久走	5	持久走により、有酸素能力の向上に努める。記録測定。	
10 11	球技	男子 サッカー 女子 バスケットボール	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
11 12 1	球技	男子 バスケットボール 女子 フットサル	8	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
1 2	球技 体育理論	バドミントン 体育編 運動・スポーツの学び方（前半）	10	バドミントンは、ダブルスを通じて、ペア（集団）の中の個の技能と動き方を習得し、その楽しさを体得する。 運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学ぶ。	

科目	保健	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

健康・安全について理解を深め、ヘルスプロモーションの考え方を身に付ける。また、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、向上させる資質や能力を身につける。

近年、問題視されている様々な問題から、環境・こころや体についての課題を把握し、個人の健康の保持増進に活用していく。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○教科書を中心に授業を行う。必要に応じて、黒板やパワーポイント、動画学習を用いて、幅広い知識を習得する。

-
-
-

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	近年問題視されている健康問題や環境問題について、個人が関心を持ち、適切に意思決定・行動選択を行い、健康で安全な生活を送ることができるよう、日々学習に取り組んでいる。	健康的な生活を送るための適切な行動について、論理的に考え、適切に判断できるようになる。	生涯にわたって健康的な生活を送るために、必要な知識と行動選択の仕方を理解しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末考査 ・ 課題の提出 ・ 観察及び記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察及び記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末考査 ・ 観察及び記録 ・ 課題の提出

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
前期	第1章 現代社会と健康	教科書 プリントなど	18	<ul style="list-style-type: none"> ①日本における健康課題の変遷 ②健康の考え方と成り立ち ③ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ④健康に関する意思決定・行動選択 ⑤現代における感染症の問題 ⑥感染症の予防 ⑦性感染症・エイズとその予防 ⑧生活習慣病の予防と回復 ⑨身体活動・運動と健康 ⑩食事と健康 ⑪休養・睡眠と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ④考查得点 ⑤出欠席数 以上を総合的に判断し評価する。
後期	第2章 生涯を通じる健康	教科書 プリントなど	17	<ul style="list-style-type: none"> ①がんの予防と回復 ②喫煙と健康 ③飲酒と健康 ④薬物乱用と健康 ⑤精神疾患の特徴 ⑥精神疾患への対応 ⑦事故の現状と発生要因 ⑧交通事故防止の取り組み ⑨安全な社会の形成 ⑩応急手当の意義と救急医療体制 ⑪心肺蘇生法 ⑫日常的な応急手当 	

令和 8 年度 芸術 音楽科 シラバス

科 目	音楽 I	単位数	2 単位	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	・ MOUSA 1 (教育芸術社)				
補助教材等					

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○グループワークやアンサンブル等、仲間との活動が多くなります。仲間の話をよく聞いたり、自分の考えを伝えるなど、コミュニケーションを大切にしてください。

○わかることやできることは、仲間に教えてあげましょう。わからないことやできないことは、仲間に教えてもらいましょう。

○自ら楽しむこと、楽しい雰囲気を作るように心掛けることが、楽しい授業になるポイントです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・ 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり及び、音楽の多様性について理解しているか ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識や技能を身につけているか	・ 自分のイメージをもって音楽表現を創意工夫しているか ・ 音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができるか	・ 音楽や音楽文化に関心を持ち、積極的に音楽表現や鑑賞に取り組もうとしているか
主な評価方法	・ 取り組みの様子 ・ 提出物の内容 ・ 実技や発表、作品などの内容	・ 取り組みの様子 ・ 提出物の内容 ・ 実技や発表、作品などの内容	・ 出席状況 ・ 取り組みの様子 ・ 提出物の内容 ・ 実技や発表、作品などの内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	①楽典	教科書・補助教材	36	①音楽の基礎的な知識	①楽譜上の音符や記号について理解している(ac)
5 6 7	②鑑賞			②音楽の要素に着目した鑑賞	②音楽を形作る要素を知覚し、それらの働きに注目しながら鑑賞する

8 9	③歌唱 ④器楽			③日本歌曲 ④楽器の演奏1	<p>ことができる(abc)</p> <p>③歌詞や曲想を理解し、表現を工夫して歌うことができる(abc)</p> <p>④基本的な奏法や楽譜の読み方を理解し、表現を工夫して演奏することができる(abc)</p>
10 11 12 1 2	⑤歌唱 ⑥創作 ⑦鑑賞・器楽 ⑧器楽	教科書・補助教材	34	⑤外国語歌曲 ⑥変奏 ⑦伝統芸術の鑑賞・実技 ⑧楽器の演奏2	<p>⑤歌詞や曲想を理解し、正しい発音で歌うことができる(abc)</p> <p>⑥自分の表したいイメージに合う表現を考えることができる(abc)</p> <p>⑦日本・海外の伝統的な芸術を鑑賞・演奏することで、理解を深め、技能を身につけている(abc)</p> <p>⑧基本的な奏法や楽譜の読み方を理解し、表現を工夫して演奏することができる(abc)</p>

令和 8 年度 芸術 美術 科 シラバス

科目	美術	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	新・高校生の美術 1 日本文教出版				
補助教材等					

1 学習の到達目標

美術の学習では、上手に描いたり、つくったりする表現技法を身に付けることや、鑑賞で作品や作家の名前を覚えることが最終の目的ではありません。自分の思いや考えを色や形で思ったように表したり、自分から進んで鑑賞したりすることを通して、美術が好きになり、様々な創造活動に触れて美的体験を豊かにし、直感力や創造的発想力をつけていくことが求められます。

自分が思ったことを思ったように描ける表現技能として描写力を身に付けることは必要ですが、一番大事なことは世界にただ一つしかない自分らしい表現をすることです。それがこの授業の目標です。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○対象物を表現する場合、基本はものをよく見ることです。離れて全体を見たり、部分を拡大してみたり、構造を見たりすることです。制作途中にも、自分の作品を少し離れてじっくりと見たりすることが大切です。

○完成に近づけるまで試行錯誤を繰り返して、自分が納得するまで作品を追求することが大切です。

○美術館などで美術を鑑賞する場合、自分が一番好きな作品を一つか二つ見つけてくるつもりで絵などを観ることです。興味を持ったら、その作品やその作家について調べてみたりすると鑑賞が深まります。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	造形的な視点を豊かにするための知識や表現における創造的な技能を身に付けて適切に使っている。	表現における発想や構想の能力、鑑賞における価値意識を伴った見方や感じ方を深めている。	制作に主体的に取り組む、美術を愛好する心情、豊かな感性や情操を深めている。学んだことを社会や生活に生かそうとしている。
主な評価方法	・提出作品 ・計画表の記述による知識の確認	・エスキース、計画表、提出作品による確認 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	・制作に取り組む姿勢 ・振り返りシートの記述による確認 ・生徒による自己評価や相互評価による確認

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
---	----	----	----	------	------

4	モノトーンによる平面構成	参考作品	6	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。 ・描画材のもつ特性を生かし、鉛筆の濃淡でイメージする空間を表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にデザインの表現の創造活動に取り組もうとしている。(c) ・造形の特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。(a) ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。(a)
5 6 7	分割法による平面構成	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・参考作品 	22	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成する。 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練る。 ・色彩についての基礎知識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にデザインの表現の創造活動に取り組もうとしている。(c) ・造形の要素の働きを理解している。(a) ・アクリルガッシュを用いて色彩による明暗の諧調を表現している。(b)
8 9 10	木彫による立体造形	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・テキスト ・参考作品 	18	<ul style="list-style-type: none"> ・形や質感、量感、重心やバランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、材料の特性を生かして表す。 ・表情や動きを捉えて創造的な表現の構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図に応じて、材料の特性を生かし創意工夫し主題を追求して創造的に表している。(a) ・対象の表情や動きから感じ取ったイメージなどを基に主題を生成し、形や質感、量感、重心やバランス、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。(b) ・彫像で表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。(c)
11 12 1 2	二葉祭ポスター制作	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・テキスト ・参考作品 	24	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝えたいイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かし、計画を基に表す。 ・伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや写真、文字の形や色、構成などが感情にもたらす効果や、伝えたいことや場面を、全体のイメージで捉えることを理解している。(a) ・意図に応じて表現方法を工夫し、アクリルガッシュなどの技法や特性を生かし、計画的に見通しをもって表している。(a) ・伝えたいメッセージや場面などを基に主題を生成し、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練っている。(b) ・ポスターのよさや美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫、効果について考え、見方や感じ方を深めている。(b) ・伝えたいメッセージや場面などを効果的にポスターに表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。(c)

令和 8 年度 芸術 科 シラバス

科目	書道 I	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	東京書籍 書道 I				
補助教材等	プリント、教科担当作成の手本等				

1 学習の到達目標

<p>書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの書に触れ人物や時代背景、書体や筆法などを知り、それを表現しようと試みる。 また、多くの書表現に触れ、表現方法の幅広さを知り、感性を豊かにする。(知識・技能) ・鑑賞したり臨書したりする中で、様々な表現方法や視点があることに気づき、多角的な視野を持って考え表現する力を養う。(知識・技能、思考力・判断力・表現力) ・作品に対する意図を明確に持ち、それを表現するための方法を考え、判断し、表現しようとする姿勢を持つ。(思考力・判断力・表現力) ・授業だけでなく日常生活の中でも積極的に芸術に触れ、多角的な視野を持って物事を捉えようとする姿勢や、自己の内面と向き合って主体的に自己表現する力を身につける。(態度)
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○書道 I では、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の基本を、古典 (中国や日本の過去の優れた書作品) を中心に学びます。書の伝統と文化についての理解を深め、様々な書の技法を習得するよう各自が意欲的に取り組むことが求められます。</p> <p>以下の学習方法を頭に置いて取り組みましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 用具・用材を正しく適切に扱うこと。 ② 正しい用筆法、姿勢を身につけること。 ③ 図版や手本をよく観察・分析できる力を身につけ、特徴を捉えること。 ④ 丁寧に、よく考えて書くこと。 ⑤ 授業時に限らず、日常生活においても書に目を向け関心を持つこと。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	書道全般や各古典について理解する。 基本的な筆遣いや各古典の筆法を知りそれを用いて書く。 分析的な鑑賞の仕方を身につける。	知識と技能を基に、制作する作品に適した表現方法を模索してそれを表現しようと試みる。	積極的に作品に触れ、鑑賞・臨書する。 知識と技能を基に、改善点を改善しようと試行錯誤する。
主な評価方法	・ 作品 ・ 記述による知識の確認 (プリント、授業内テスト) ・ 制作中の様子	・ 作品 ・ 制作中の様子 ・ プリントへの記述内容	・ 作品 ・ 取り組みの姿勢 ・ 自己評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6 7	書写から書道へ『漢字の楷書』	教科書	28	① 書写から書道へ ② 漢字の成り立ち ③ 用筆法・結構法 ④ ・欧陽詢「九成宮醴泉銘」 ・虞世南「孔子廟堂碑」 ・褚遂良「雁塔聖教序」 ⑤ 文化祭展示作品制作、鑑賞 ⑥ 展覧会出品作品制作	①書写で学んだことを確認し、芸術科書道でどのような学習をするかを理解する(a) 用具・用材、姿勢、執筆法を知る(a) ②文字の成り立ちや変遷を理解する(a) ③楷書の基本的な用筆法、結構法を理解し、その技法を習得する(abc) ④楷書の成立と初唐の三大家を知る(a) 古典の概要や特徴、人物や時代について理解する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 古典を比較鑑賞しそれぞれの特徴を理解する(abc) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) ⑤⑥直観的、分析的に鑑賞する(ab) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) 相互鑑賞し自己評価をする(bc)
8 9 10	『漢字の書行書』	教科書	12	⑦ 行書の用筆法・字形 ⑧ ・王羲之「蘭亭序」 ・空海「風信帖」 ⑨ 展覧会出品作品制作 ⑩ 校内展示作品制作、鑑賞	⑦行書の用筆法や特徴を理解し、その技法を習得する(abc) ⑧古典の概要や特徴、人物や時代について理解する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 古典を比較鑑賞しそれぞれの特徴を理解する(abc) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) ⑨⑩直観的、分析的に鑑賞する(ab) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) 相互鑑賞し自己評価をする(bc)
10 11	『漢字の書篆刻』	教科書	9	⑪ 名印（陰刻）を彫る	⑪落款の役割と篆刻の用具・用材、手順を知る(a) 辞典を用いて自分の名前の篆書を調べ、正しく印稿を作成する(abc) 用具を正しく扱い、生き生きと彫る(a) 丁寧に押印する(ab)
11 12	『漢字の楷書』	教科書	7	⑫ ・顔真卿「自書告身」 ・「牛橛造像記」 ⑬ 展覧会出品作品制作	⑫唐の四大家を知る(a) 古典の概要や特徴、人物や時代について理解する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 古典を比較鑑賞しそれぞれの特徴を理解する(abc) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc) ⑬直観的、分析的に鑑賞する(ab) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc)
12	『漢字の書隸書』	教科書	2	⑭ 「曹全碑」	⑭隸書の成立と用筆法、特徴を理解し、その技法を習得する(abc) 古典の概要や特徴、人物や時代について理解する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 鑑賞を基にそれを意識して臨書する(abc)

1 2	『仮名の書』	教科書	10	<p>⑮ 仮名の成立 用具・用材、筆遣い 平仮名、連綿、変体 仮名</p> <p>⑯ ・伝藤原行成「蓬萊 切」</p>	<p>⑮ 仮名の成立を理解し、用具・用材を知る(a) 平仮名の単体、連綿、変体仮名を知る(a) 基本的な用筆法を理解して書く(abc)</p> <p>⑯ 古典の概要や特徴、人物や時代について理解 する(a) 直観的、分析的に鑑賞する(ab) 仮名の筆遣いに注意しながら丁寧に臨書する (abc)</p>
2	『漢字の書』		2	⑰ 古典の特徴を応用した創作	⑰ 既習の古典の特徴を応用した二字熟語の創作 作品を制作する(abc)

令和 8 年度 英語科 シラバス

科目	英語コミュニケーション I	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	BRIGHTEST English Communication I (東京書籍)				
補助教材等	BRIGHTEST English Communication I ワークブック				

1 学習の到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を捉えたりすることができる。 3. 基本的な語句や文を用いて、論理的に話したり書いたりして伝えあったりすることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① まず 2～3 回黙読し、全体の概要 (内容) をとらえる。 ② 教科書や学習ノート、辞書 (紙推奨。電子可) を用いて新出単語を調べ意味を覚える。 <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① その日に学習した英文を 2～3 回音読する。 ② ワークブック等を用いて問題やサマリー (要約) に取り組み、内容理解を深める。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙/語法などの基本的な知識を身につけているかどうか。 ・本文理解ができていくかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文内容について自分なりに要約し伝えているかどうか。 ・本文内容について自分の考えや身近な題材について、英語で表現できるかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文内容について自分の考えや身近な題材について理由や根拠とともに、英語で表現しようとしているかどうか。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (中間・期末) ・単語テスト ・Performance Test 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 (中間・期末) ・Performance Test 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・提出物 ・Performance Test

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	BRIGHTEST English Communication I (東京書籍)	33	S+V / S+V+C / S+V+O / S+V+O+O / S+V+O+C 5 文型 現在・過去・未来、現在完了形 分詞、関係代名詞	A : 目標を十分達成できた B : 目標をおおむね達成できた C : さらに努力を要する
7 8 9	Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6	BRIGHTEST English Communication I (東京書籍)	24	受動態、助動詞 動名詞、過去完了	A : 目標を十分達成できた B : 目標をおおむね達成できた C : さらに努力を要する
10 11 12	(Lesson 6) Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9	BRIGHTEST English Communication I (東京書籍)	30	仮定法 関係代名詞、関係副詞	A : 目標を十分達成できた B : 目標をおおむね達成できた C : さらに努力を要する
1 2	(Lesson 9) Lesson 10	BRIGHTEST English Communication I (東京書籍)	18	接続詞 分詞構文	A : 目標を十分達成できた B : 目標をおおむね達成できた C : さらに努力を要する

令和 8 年度 英語科 シラバス

科目	論理表現 I	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	Genius English Logic and Expression I Revised (大修館書店)				
補助教材等	グラマー・ノート 他				

1 学習の到達目標

1. 英文法の形式・意味・機能に習熟し、必要な場面でそれを用いて正しく表現することができる。
2. 日常的な話題や社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、考えや気持ちなどを工夫をして話して伝えあったり、文にまとめて書いて伝えることができる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 【予習】**
- ① 授業で扱う単元 (文法項目) を読み、おおよその内容をつかむ。
 - ② わからない単語や表現の意味を前後関係から推測した後、辞書と参考書でわからない単語や表現を調べる。
 - ③ 練習問題を確認し、自分なりに解く (わからないところをはっきりさせておく)。
- 【復習】**
- ① その日に学習した問題をノートに繰り返す。
 - ② 間違えた問題をノートに整理する。
 - ③ 重要単語や表現を英語で言えて書けるように繰り返し練習する。
 - ④ 付属のワークブックに取り組む。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・語彙語法、文法などの基本的な知識を身につけているかどうか。	・目的や場面、状況などに応じて論理的に考え、表現しているかどうか	・目的や場面、状況などに応じて論理的に考え、表現しようとしているかどうか
主な評価方法	・定期考査 (中間・期末) ・小テスト	・定期考査 (中間・期末)	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学習内容（文法内容）	評 価 規 準
4 5 6	Unit 1 Unit 2 Unit 3	Genius English logic and expression I Revised (大修館書店)	22	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介（文の種類） その他の紹介（文型と動詞） 学校生活（進行形） 	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
7 8 9	Unit 4 Unit 5 Unit 6 Unit 7	Genius English logic and expression I Revised (大修館書店)	16	<ul style="list-style-type: none"> 趣味・関心（未来） 国際交流（完了） 説明（助動詞） 振り返り（助動詞） 	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
10 11 12	(Lesson 7) Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10	Genius English logic and expression I Revised (大修館書店)	20	<ul style="list-style-type: none"> 勧める（受動態） 健康（不定詞） 進路（不定詞） 	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
1 2	(Lesson10) Lesson 11 Lesson 12	Genius English logic and expression I Revised (大修館書店)	12	<ul style="list-style-type: none"> 教育（動名詞） 交通（比較） 人物など（関係詞）など 	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する

令和 8 年度 家庭科 シラバス

科目	家庭基礎	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	Agenda 家庭基礎				
補助教材等	デジタル版最新生活ハンドブック、Agenda 家庭基礎学習ノート				

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する脂質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に着けるようにする。【知識及び技能】

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う【思考力・判断力・表現力】

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。【学びに向かう態度・人間性】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○自分の生活や環境について振り返り、社会とのつながりを確認していきましょう。

○授業で身につけた知識や技術を日常生活の中で活かしましょう。

○実験実習は積極的に取り組み、まとめをしっかりと行いましょう。

○課題の完成度を高めるよう工夫し、提出物は期限内に行いましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらにかかわる技能を身につけている	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 作品、レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 作品、レポート 発表等 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言内容 実習時の取り組み 生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	生活設計 第1章 自分・家族・ -多様化した 社会に生き る-	教科書 学習ノート デジタル版資 料集	6	1. これからをどう生き るか 2. 青年期の自立 3. 社会の変化と家族 4. 家族・人生・生き方 と法律 5. 多様な課題を抱え る家族・家庭	・自らのこれまでの生き方を探ったうえで、主体的な生活設計の検討ができる(b)(c) ・個人の生き方や性のあり方など多様性の尊重について理解している(b)(c) ・青年期の意味と自立への課題について理解し、今後の人生選択に関係する基礎的・基本的な知識を身につけている(a) ・自立の意味を理解しており、青年期の課題としてとらえ、現在の自分の課題をみいだすことができる(b)(c) ・家族・家庭生活のあり方に関心を持ち、男女が協力して家庭や社会を築くことの重要性を考えようとしている(a)(b) ・家族法の内容と今後の課題について理解したうえで、多様な生き方を尊重し、男女が協力して社会を築くという考え方を身につけている(a)(b) ・家族や個人の抱える社会課題に関心を持ち、課題解決に向けた取り組みを調べることができる(b)(c)
5	2章子ども -子どもと生 きる-		8	6. 持続可能な生活と 仕事 7. 多様な生き方を保 証する社会へ 1. 子どもと出会う 2. 子どもの心とからだ の発達 3. 子どもの生活	・多様な生き方・パートナーシップの保障、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた家事・職業のあり方などについて理解し、ライフスタイルをめぐる問題やワークルールなどについての基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(b) ・理想の生き方やパートナーシップのあり方について、現在の社会的な問題や多様性の尊重なども理解したうえで、将来の生活を想定した生活設計にいかすことができる(a)(b) ・子どもや子育てに関心を持ち、子どもを取り巻く地域の人間として、あるいは将来の親として、子どもが健やかに成長するためにはどうしたらいいのかを、意欲的に考えようとする(b) ・子どもの身体的・精神的発達について理解している(a) ・子どもの生活に関わる基礎的な知識やその援助の方法などを理解している(a)
6			8	4. 子どもと遊び 5. 子どもの育つ環境 と社会 6. 子どもの権利と福 祉 7. 子どもとともに育つ	・自分の体験から遊びの系統を理解できる(c) ・子育てに関する制度などを理解し、子どもを取り巻く環境の変化と関連させて考えることができる(a)(b) ・子どもの権利条約の内容を理解し、子どもの意見尊重、子どもの最善の利益の重要性を理解して

					<p>いる(a)(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で次世代育成に取り組むことへの重要性を理解している(a)(b)
7	5章食生活 -楽しく安全に食べる-		6	<p>1. 食べることを通して</p> <p>2. 栄養と食品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活や食物・食品に関心を持ち、自らの食生活について、健康を維持するだけでなく、精神的な豊かさを向上させる意味もあわせ持つことを理解し、そのための知識や技術の習得、改善のための考察や行動に意欲的に取り組もうとする(a)(b) ・バランスのよい食生活の重要性を理解し、エネルギーや食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすについて理解している(a)
8 9			2 8	<p>3. 栄養素のはたらきと食品の栄養</p> <p>4. 食品の選択</p> <p>5. 食品の取り扱い</p> <p>6. 食品の安全性</p> <p>7. 豊かな食生活の背景には</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類とその特徴に関する知識を習得し、またそれらを多く含む食品の特徴を理解している(a)(c) ・食品の表示に関する基本的な知識を身につけている(a)(b) ・食品の保存、食中毒、食品添加物等の基本的な知識を身につけている(a)(b) ・安全性、環境などの多様な視点を持ち、現代の食生活の問題点および課題を見出し、思考を深めている(a)(b) ・自らの食生活について、栄養、環境、食品の選択、経済性などの視点から、問題点・課題と解決の方向性をみいだすことができる(b)(c)
10			5	8. 食事をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習において、調理のための基礎的な技術が習得できており、知識と融合させて、献立を考え、食品を選び、調理をするなどの行動ができる(c)
10 11	6章衣生活 -選んで着る-		3 6	<p>1. 衣生活を見直す</p> <p>2. 衣服の機能と着想</p> <p>3. 衣服の材料と成り立ち</p> <p>4. 衣服の管理</p> <p>5. 安心して衣服を着るために</p> <p>6. いろいろな人が着る衣服</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活と衣服に関心を持ち、自らの衣生活をより豊かで充実したものにするために、知識や技能の習得に意欲的に取り組もうとする(a) ・衣服の機能について理解し、TPO に応じた適切な衣服の選択ができる(a)(b) ・用途や着用目的に合った被服材料の選択や管理ができる(a)(b) ・衣服の性質を理解した上で適切な洗濯の方法を選択する力を身につけている(a) ・衣服を着る意味、服装についての自己決定力の意味を理解し、個性豊かで健康的な衣生活を送るために必要な、衣服の材料・管理方法などについての基礎的・基本的な知識を身につけている(a) ・上記の課題解決のために必要な衣服の管理・廃棄の方法を判断・選択する力を身につけている(a)(b) ・自らの衣生活について、流行と個性、環境、健康、安全などとの関係で、問題点・課題をみいだすことができる(a)(b)

				7. 被服構成を知る	・簡単な実習を通して、布製品の成り立ちを理解する。(a)(b)(c)
12	7章住生活 -人間らしく 住む-		6	1. 住まいの選択 2. ライフスタイルと住まい 3. さまざまな家族・さまざまな住まい 4. 住まいの安全・安心 5. 住環境の安全・安心 6. 環境共生の今・昔 7. 住まいづくり・まちづくりへの参加	・住まいと住まい方、地域に関心を持ち、自らの住生活を安全で人間らしい充実したものにするために必要な知識・技術を身につけている(a) ・ひとり暮らしのための住まいの調査から、間取りや立地などの問題点を読み取ることができる(b) ・間取りを理解したうえで、適切な住まいについて考える力を身につけている(a)(b) ・ライフステージに応じた住まいの変化について理解している(a)(b) ・健康で安全な住まい・住まい方をするために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている ・暮らしにあった住まいの種類や間取り、健康で安全・快適な住環境や地域環境についての基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(b)(c) ・伝統的な住まいの工夫や、環境負荷の少ない住まいの工夫について理解している(a)(b) ・自らの住まいと地域について、生活上の課題や住要求、健康・安全・快適性などの面から、問題点・課題をみいだすことができる(b) ・問題点・課題の解決のために必要な、住まいの選択・管理・改修の方法、地域社会への関わり方を判断する力を身につけている(c)
1	8章消費・環境 -消費社会を 生きる-		6	1. お金の管理とライフデザイン 2. 暮らしと経済のかかわり 3. 意思決定と契約 4. 購入方法の多様化 5. 消費者問題 6. 消費者保護 7. 持続可能な社会をめざして(1) 8. 持続可能な社会をめざして(2) 9. 消費者市民社会	・自らの消費行動のなかでの問題点や家計管理のポイントを、社会や環境との関わりも含め、みつけることができる(a)(b) ・家計の管理、家庭経済と国民経済の関わりについて基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(b) ・問題解決のために、情報の選択・発信や購入の選択など、自ら主体的に判断し意思決定する力を身につけている(b)(c) ・契約の原理と消費者信用の内容を理解しており、支払い方法の適切な判断ができる(a)(b) ・消費生活の問題と課題を見出し、その解決をめざして考えを深めている(a)(b) ・消費をめぐるトラブルに直面した場合の解決方法や手段を身につけている(a)(b)(c) ・大量消費社会の諸課題について理解し、持続可能な社会の実現をめざして考えを深めている(a)(b)(c) ・自らの生活や消費行動の環境への影響に関心を持ち、持続可能な社会の実現に向けて主体的で責任ある行動をとろうとする(b)(c) ・自らの生活や消費行動のなかでの問題点や課

				<p>生活を、環境との関わりで見つけることができる(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの消費行動と社会との関係や消費者情報に関心を持ち、社会的影響や環境への負荷などに配慮しながら、主体的で責任ある消費行動をとろうとする(c) ・家庭科の学習で学んできたことを生活設計に活かすことができる
2 3	<p>3章高齢者 - 高齢者と生きる-</p> <p>4章社会福祉- 支えあい共に生きる-</p>		<p>6</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を知る 2. 高齢社会の現状と課題 3. 高齢者の尊厳と自立の支援 4. 高齢者を支える制度としくみ <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活を支える福祉と社会保障制度 2. 共生社会の実現に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に対する自分の現在のイメージなどについて意見や考えをまとめられる(b) ・高齢期の問題について、ライフコースのなかで自らが将来直面することとして、高齢者の生活上や福祉の問題を考えることができる(a)(b) ・高齢者の尊厳や人権について理解し、高齢者の生活支援に関する基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(c) ・高齢者の心身・生活の特徴や高齢社会の現状、福祉制度などを理解し、それらについての基礎的・基本的知識が身につけている(a)(b) ・貧困や障害者の現状、社会保障制度とその他の支援の内容を理解し、それについての基礎的・基本的知識を身につけている(a)(b) ・共生社会のあり方とノーマライゼーションなどの基本概念を理解し、それらについての基礎的・基本的な知識を身につけている(a)(b)
	ホームプロジェクト		<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中から課題を見つけ、自ら課題解決のために行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習で学んできたことを活かし、課題解決のための過程を組み立てることができるまたそれを発表することができる(b)(c)

令和8年度 情報科 シラバス

科目	情報 I	単位数	2	履修学年・クラス(講座)	I 学年
使用教科書	日本文教出版 情報 I ADVANCED				
補助教材等	情報 I 問題演習ノート(日文), Python(モナカエデュケーション), 情報 I 全対応コース(ライフイズテック)				

1 学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 教科書、問題演習ノート、および1人一台端末を活用して座学と実習を行う
- 協働作業を通じてコミュニケーション能力の向上をはかる
- オンライン授業の形態も利用しながら多様な授業を体験・実践する
- 日々の授業課題をぬかりなくやる
- 情報 I 全対応コース(エドテック教材)を自学自習用として知識理解、探究活動の活用する

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
主な評価方法	・ワークシート ・反転学習(全対応コース) ・考査 など ・	・ワークシート ・作業ファイル ・話し合い ・発表 など	・振り返りシート(フォームなど) ・行動観察 など ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点:(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4月	序章 情報社会に生きるわたしたち	教科書 問題集 全対応コース	6	1 なぜ情報について学ぶのか ・情報について学ぶ意義 2 これから学ぶ「情報 I」について ・社会をよりよくするために ・情報 I で何を学ぶのか 1 情報とメディア (1) 情報とは (2) 情報の特性 (3) メディアとは	(知・技) ◆観察 情報について学ぶ意義を理解している。「情報 I」で学ぶ内容を理解している。 (思・判・表) ◆観察 情報とは何か、また、情報技術が社会に対し、どのように役立つかを説明できる。「情報 I」で学ぶ内容に関連した現代社会における問題や、問題解決の例を考えることができる。 (主体的学び) ◆観察 情報および情報技術という視点で社会を捉え

	第1章 情報社会の問題解決		<p>1 情報とメディア</p> <p>(1) 情報とは</p> <p>(2) 情報の特性</p> <p>(3) メディアとは</p> <p>2 情報社会とその課題</p> <p>(1) 社会の変遷</p> <p>(2) 情報社会の課題</p> <p>3 問題解決</p> <p>(1) 問題解決とは</p> <p>(2) 問題解決の流れ</p> <p>(3) 問題の整理と分析のための手法</p> <p>(4) 問題解決に役立つ手法</p>	<p>ようとしている。「情報 I」で学ぶ内容について、わたしたちが直面する問題や問題解決と関連づけて捉えようとしている。</p> <p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の定義とその特性、メディアの定義とその特性を理解している。 ・社会の発展において、情報技術が重要な役割をになっていることを理解している。 ・情報に関する法規やモラルなどの本質的な意義を理解している。 ・問題解決の基本的な流れを理解している。 ・問題解決の基本的な流れを理解している。 <p>(思・判・表) ◆授業プリント、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の特性を踏まえたメディアの選択ができる。 ・新しい技術が社会にもたらす恩恵と問題について考えることができる。 ・問題点を明確にしたり、思考を整理したり、解決に向けて問題点を分析したりすることができる。 <p>(主体的学び) ◆授業プリント、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な場面をイメージしながら、情報とメディアの特性に関する理解を深めようとしている。 ・情報社会における恩恵と課題について、身近なものをもとに考え、理解を深めようとしている。 ・答えが1つではない問題についても、その解決に取り組もうとしている。
5月	第2章 メディアとコミュニケーション	教科書 問題集 全対応コース	<p>1 コミュニケーション手段の変遷</p> <p>(1) コミュニケーション手段の発達</p> <p>(2) メディア・リテラシー</p> <p>2 インターネットの発展</p> <p>(1) インターネットの登場</p> <p>(2) インターネットの発展</p> <p>(3) ソーシャルメディアの普及</p> <p>3 コミュニケーション手段の特性</p> <p>(1) コミュニケーションの形態</p> <p>(2) コミュニケーション手段の適切な使い分け</p> <p>(3) インターネット上でのコミュニケーションの特性</p> <p>(4) インターネット上の情報流通の課題</p> <p>8</p>	<p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション手段がどう発展してきたか、その歴史について理解している。 ・メディア・リテラシーを身につけることの意義を理解している。 ・インターネットの発展の歴史について理解している。 ・インターネットの発展によって生じた課題やソーシャルメディアの活用について理解している。 ・コミュニケーションの形態について理解している。 ・インターネット上のコミュニケーションの特徴・課題を理解している。 <p>(思・判・表) ◆授業プリント、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション手段が時代とともにどのように変化してきたかを説明できる。 ・情報の信憑性を確かめる方法を説明できる。

	第3章 情報デザイン			<p>1 情報デザインによる問題解決</p> <p>(1) 情報デザインとは</p> <p>2 情報デザインの工夫や技術</p> <p>(1) 抽象化、可視化、構造化</p> <p>(2) 情報を整理する技術 (LATCH)</p> <p>(3) ユニバーサルデザイン</p> <p>(4) アクセシビリティとユーザビリティ</p> <p>(5) シグニファイア</p>	<p>・インターネットの特徴や情報格差について説明できる。</p> <p>・ソーシャルメディアの役割について考えることができる。</p> <p>・コミュニケーション手段を形態によって分類し表現することができる。</p> <p>・インターネット上のコミュニケーションの特性を説明できる。</p> <p>(主体的学び)</p> <p>・授業で習う知識と身近な事象を結び付けて考えようとしている。</p> <p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <p>・情報デザインの考え方について理解している。</p> <p>・情報をデザインする際の工夫や技術について理解している。</p> <p>(思・判・表) ◆授業プリント、定期考査</p> <p>・目的や受け手の状況に応じた情報デザインを考えることができる。</p> <p>・情報デザインの考え方や方法を用いて表現できる。</p> <p>(主体的学び) ◆授業プリント、観察</p> <p>・身近な事例を、情報デザインの考え方や方法に基づいて捉えようとしている。</p>
	第4章 情報のデジタル化			<p>1 アナログとデジタル</p> <p>(1) アナログとデジタルの違い</p> <p>(2) アナログとデジタルの特徴</p> <p>2 符号化と情報量</p> <p>(1) 情報のデジタル化</p> <p>(2) データの情報量、情報量の単位</p>	<p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <p>・アナログとデジタルのそれぞれの特徴について理解している。・コンピュータ内部では情報を2進法で扱っていることを理解している。</p> <p>(思・判・表) ◆授業プリント、定期考査</p> <p>・アナログとデジタルのそれぞれのメリット・デメリットについて考えることができる。・情報量をビットを用いて表現することができる。</p> <p>(主体的学び) ◆授業プリント、観察</p> <p>・アナログとデジタルのデータを扱う身近なものを積極的に探し、理解を深めようとしている。・普段の生活の中で符号化されている場面を、積極的に考えようとしている。</p>
6月	第4章 情報のデジタル化	教科書 問題集 全対応コース	8	<p>3 コンピュータで用いられる数の表現</p> <p>(1) 10進法から2進法への変換</p> <p>(2) 2進法から10進法への変換</p> <p>(3) 16進法への変換</p> <p>5 音のデジタル化</p> <p>(1) 音のA/D変換</p> <p>(2) 標本化周波数と量子化ビット数</p> <p>(3) PCM方式でデジタル化した音のデータ</p>	<p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <p>・2進法、10進法、16進法について理解している。・コンピュータ内部では文字コード表にしたがって文字が処理されていることを理解している。・音のA/D変換のプロセスやデータ量への影響などを理解している。</p> <p>・符号化による音楽データの表現法について理解している。・画像のA/D変換のプロセス</p>

			<p>量</p> <p>(4) 標本化定理</p> <p>(5) 音声データのファイル形式</p> <p>(6) 符号を割り当てる方法</p> <p>6 画像のデジタル化</p> <p>(1) 画像の A/D 変換</p> <p>(2) ビットマップ画像の解像度と色の表現 (階調)</p> <p>(3) ビットマップ画像のデータ量</p> <p>(4) 画像データのファイル形式</p> <p>(5) ベクトル画像</p> <p>7 動画のしくみ</p> <p>(1) フレームとフレームレート</p> <p>(2) 動画のデジタル化と圧縮</p> <p>8 データの圧縮</p> <p>(1) データ圧縮</p> <p>(2) 圧縮率</p> <p>(3) ランレングス法</p> <p>(4) ハフマン符号化</p>	<p>やデータ量への影響などを理解している。</p> <p>・画像の形式とその特徴を理解している。・動画が静止画によって構成されていることや圧縮の方法について理解している。・ランレングスやハフマン符号化などの圧縮方法の原理について理解している。</p> <p>(思・判・表) ◆授業プリント、定期考査</p> <p>"・2進法、10進法、16進法であらわされた数を相互に変換することができる。・文字コード表にしたがって、文字を16進法などであらわすことができる。・音の A/D 変換において、標本化周波数や量子化ビット数が果たす役割について説明できる。</p> <p>・音声データの圧縮について、非可逆圧縮などと人の認知特性とを関連付けて説明できる。・解像度と色数の関係について説明できる。</p> <p>・階調や画素とデータ量の関係について説明できる。・動画データにおける圧縮技術の必要性について説明できる。・圧縮方法の使い分けを判断することができる。</p> <p>・圧縮に適しているデータとそうでないものがあることを説明できる。</p> <p>(主体的学び) ◆授業プリント、観察</p> <p>・n 進法の相互変換の方法について、効率的なやり方を探そうと工夫している。・フォントの表現方法の違いに興味を持ち、それぞれの特徴について深く考えようとしている。・音楽データの種類や特性について興味を持つことができる。・デジタルカメラの構造やしぐみに興味を持ったり、非可逆圧縮と品質とのかかわりなどに興味を持つことができる。・動画のデータ量を求める演習を通じて、動画と圧縮との関係について考えを深めようとしている。・圧縮率を求める課題に粘り強く取り組み、類題に取り組むなどして理解を深めようとしている。</p>
7月	第5章 コンピュータのしくみ	教科書 問題集 全対応コース	<p>6</p> <p>1 ハードウェア</p> <p>(1) コンピュータの基本構成</p> <p>(2) コンピュータ内部の動作のしくみ</p> <p>(3) CPU の性能</p> <p>(4) 周辺機器とインタフェース</p> <p>2 ソフトウェア</p> <p>(1) ソフトウェアの種類</p> <p>(2) OS のおもな役割、機能</p> <p>3 2進法による計算</p> <p>(1) 筆算による加算と減算</p> <p>(2) 補数を使った減算</p> <p>4 論理回路</p>	<p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <p>・コンピュータの基本構成としての5大装置と、それぞれの役割について理解している。</p> <p>・インタフェースの規格について理解している。・ソフトウェアは基本ソフトウェアとアプリケーションソフトウェアに大別されることを理解している。</p> <p>・OS の役割や機能を理解している。・2進法の数の加算、減算について理解している。・論理回路を構成する基本的な論理ゲートの役割を理解している。</p> <p>・論理ゲートや論理回路の真理値表を理解し</p>

				<p>(1) CPUと論理回路</p> <p>(2) 半加算回路</p> <p>(3) 全加算回路</p>	<p>ている。</p> <p>(思・判・表) ◆授業プリント、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを構成する各装置どうし関係と、情報の流れ、制御の流れを理解し説明できる。 ・CPUのクロック周波数から、実行命令数や命令実行時間を考えることができる。 ・OSの管理機能について理解し、どのような場面での管理機能が使われているかを説明できる。 ・2進法の数の加算、減算の計算ができる。 ・2の補数の加算で減算ができるしくみを説明できる。 ・さまざまな論理回路の真理値表を完成させることができる。 <p>(主体的学び) ◆授業プリント、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で習った知識と身近にあるコンピュータの構成を結び付けて考えようとしている。 ・ソフトウェアの種類とOSの役割について、自身が発しているコンピュータの動作と結び付けて考えようとしている。 ・加算、減算、補数を使った減算に粘り強く取り組み、類似の問題に取り組むなどして理解を深めようとしている。 ・真理値表を完成させる問題に粘り強く取り組み、類似の問題に取り組むなどして理解を深めようとしている。
8月	第6章 アルゴリズムとプログラミング	教科書 問題集 全対応コース Python	2	<p>1 アルゴリズム</p> <p>(1) アルゴリズムとは</p> <p>(2) アルゴリズムの効率性</p> <p>2 アルゴリズムの基本構造</p> <p>(1) アルゴリズムの基本構造</p> <p>3 アルゴリズムの表現方法</p> <p>(1) フローチャート</p> <p>(2) アクティビティ図</p> <p>(3) 状態遷移図</p>	<p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムが作業手順であることを理解している。 ・アルゴリズムの効率性について理解している。 ・アルゴリズムの基本的な3つの構造を理解している。 ・アルゴリズムの表現方法の違いについて理解している。 <p>(思・判・表) ◆授業プリント、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングにおけるアルゴリズムの重要性について説明できる。 ・示された処理がどのようなアルゴリズムの構造を使っているのか説明ができる。 ・示されたアルゴリズムをフローチャート、アクティビティ図、状態遷移図で表現することができる。 <p>(主体的学び) ◆授業プリント、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率のよいアルゴリズムを考えようとしている。 ・普段の行動の中からアルゴリズムを探そうとしている。 ・アルゴリズムを表現することに興味を持つことができる。
9月	第6章 アルゴリズムとプログラミング	教科書 問題集 全対応コース Python	8	<p>4 プログラミング言語</p> <p>(1) プログラミング言語とは</p> <p>5 プログラムの基本①</p> <p>(1) 変数</p>	<p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング言語にはいくつもの種類があることを理解している。 ・変数やデータ型、演算子の役割やはたらきについて理解している。

			<p>(2)データ型</p> <p>(3)演算子</p> <p>6 プログラムの基本②</p> <p>(1)分岐構造のプログラム</p> <p>(2)条件を満たす間、反復するプログラム</p> <p>(3)指定した回数だけ反復するプログラム</p> <p>(4)二重反復構造のプログラム</p> <p>(5)分岐構造と反復構造の組み合わせ</p>	<p>基本的なアルゴリズムの構造とそのはたらきについて理解している。</p> <p>(思・判・表)◆授業プリント、考査、成果物</p> <p>・目的により異なるプログラミング言語が使われることを説明できる。・変数に値を代入して計算をするなど、変数や演算子などを用いた計算ができる。・プログラミングに際し、基本的なアルゴリズムを活用することができる。</p> <p>(主体的学び)◆授業プリント、観察、成果物</p> <p>・プログラミング言語の世界の広さに興味を持つことができる。</p> <p>・変数を使うことで多様な計算が可能になることに興味を持ち、類似の問題に取り組むなどして理解を深めようとしている。</p> <p>・複雑なプログラムであっても、基本的な3つの構造によって成り立っていることを意識しながら、プログラムを作成しようとしている。</p>
10月	第6章 アルゴリズムとプログラミング	教科書 問題集 全対応コース	<p>7 配列とその利用</p> <p>(1)配列を使った総和を求めるプログラム</p> <p>(2)配列を使った最大値・最小値を求めるプログラム</p> <p>(3)2次元配列と二重反復構造を使ったプログラム</p> <p>(4)並べ替えのプログラム</p> <p>8 関数・ライブラリ・API</p> <p>(1)関数</p> <p>(2)ライブラリ</p> <p>(3)API</p> <p>9 プログラム作成の流れと改善</p> <p>(1)プログラミングの流れ</p> <p>(2)プログラムの作成</p>	<p>(知・技)◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <p>・配列の基本概念、要素の操作、配列を用いた基本的なアルゴリズムの作成方法を理解している。</p> <p>・関数を使うことで、より簡潔に処理を記述できるようになることを理解している。</p> <p>・ライブラリ、APIを用いることで、プログラムを効率的に作成できることを理解している。</p> <p>・プログラミングの基本的な流れに基づき、検討・設計・実装・テスト・デバッグの各工程について理解している。</p> <p>(思・判・表)◆授業プリント、考査、成果物</p> <p>・配列を用いたデータ処理の利点を考え、目的に応じた適切なアルゴリズムを設計・作成できる。</p> <p>・複数回実行する処理を関数を使って簡潔にあらわすことができる。</p> <p>・ライブラリを用いてプログラムを作成することができる。</p> <p>・プログラムの仕様に基づき、目的に応じたアルゴリズムを考案し、適切な方法で表現することができる。</p> <p>(主体的学び)◆授業プリント、観察</p> <p>・配列の活用を通じてデータ処理の効率化を探究し、試行錯誤を重ねながら学習を進めようとしている。</p> <p>・課題解決のために関数、ライブラリ、APIを活用し、自ら試行錯誤しながら学習を進めようとしている。</p> <p>・プログラムの設計・作成・デバッグの過程で試行錯誤を重ねながらプログラムを作成・修</p>

	第7章 モデル化とシミュレーション		<p>1 モデル化とは</p> <p>(1)モデルとモデル化</p> <p>(2)モデルの分類</p> <p>(3)図的モデル</p> <p>(4)数式モデル</p> <p>2 モデル化とシミュレーション</p> <p>(1)コンピュータによるシミュレーション</p> <p>(2)モデル化の手順</p> <p>(3)シミュレーションの手順</p> <p>"</p>	<p>正しい、粘り強く改善に取り組める。</p> <p>(知・技)◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル化の意味を理解している。 ・モデルの分類とその特性を理解している。 ・何のためにシミュレーションを行うかを理解している。 ・モデル化やシミュレーションの手順を理解している。 <p>(思・判・表)◆授業プリント、考査、成果物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図的モデルを使って事象を表現できる。 ・条件をもとに数式モデルを立式できる。 ・数式モデルをもとにシミュレーション用プログラムをつくることのできる。 ・シミュレーションの結果をもとに考察できる。 <p>(主体的学び)◆授業プリント、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で習う知識と身近な事象を結び付けて考えようとしている。 ・シミュレーションの結果をもとに試行錯誤しながら粘り強く評価し改善しようとしている。
11月	第7章 モデル化とシミュレーション	教科書 問題集 全対応コース	<p>3 確定モデルのシミュレーション①</p> <p>(1)物理法則(スカイダイビング)のシミュレーション</p> <p>(2)モデル化とシミュレーション(自由落下の場合)</p> <p>(3)モデル化とシミュレーション(空気抵抗のある落下の場合)</p> <p>4 確定モデルのシミュレーション②</p> <p>(1)条件を満たす解を求めるシミュレーション</p> <p>(2)モデル化とシミュレーション(模擬店の売り上げ)</p> <p>5 確率モデルのシミュレーション①</p> <p>(1)確率モデルのシミュレーションとは</p> <p>(2)モデル化とシミュレーション(カード1枚収集の場合)</p> <p>(3)モデル化とシミュレーション(全種収集の場合)</p> <p>6 確率モデルのシミュレーション②</p> <p>(1)待ち行列のシミュレーション</p> <p>(2)モデル化とシミュレーション(乗車待ちのようす)</p>	<p>(知・技)◆授業プリント、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スカイダイビングにおける「空気抵抗を考慮する場合」と「考慮しない場合」のシミュレーションを正しく行い、違いを確認することができる。 ・線形計画法によるシミュレーションの方法を理解している。 ・確率モデルのシミュレーションの意味を理解している。 ・確率モデルのシミュレーションでは試行回数を増やすことも重要であることを理解している。 ・待ち行列のシミュレーションについて理解している。 <p>(思・判・表)◆授業プリント、考査、成果物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スカイダイビングにおける空気抵抗を考慮する場合と考慮しない場合のシミュレーション方法の違いを考え、説明することができる。 ・たくさんのケースをシミュレーションし、条件に合う解を見つけることができる。 ・不確定要素を含む事象を予測する方法を考え、適切に表現することができる。 ・不確定要素を含む事象を予測する方法を考え、適切に表現することができる。 ・待ち行列のシミュレーションの方法を考え、最適化の手段を判断することができる。 <p>(主体的学び)◆授業プリント、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スカイダイビングにおけるシミュレーションに

				<p>積極的に取り組み、理解を深めようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的にたくさんのケースをシミュレーションし、条件に合う解を見つけようとしている。 不確定要素を含む事象の予測に対する理解を深めようとしている。 プログラムの変数を変更するなどして、シミュレーションを何度も試行しようとしている。 アトラクションの乗り場を変更したときの待ち行列のシミュレーションにみずから取り組もうとしている。
12月	第8章 情報通信ネットワーク	教科書 問題集 全対応コース	<p>6</p> <p>1 情報通信ネットワークとは (1) 情報通信ネットワークとは (2) LAN を構成する機器</p> <p>2 ネットワークの接続方法と通信速度 (1) 有線 LAN (2) 無線 LAN (3) 通信速度</p> <p>3 通信方式と階層モデル (1) 回線交換方式とパケット交換方式 (2) 4階層モデルとプロトコル</p> <p>4 TCP/IP ネットワーク (1) IP と IP アドレス (2) グローバル IP アドレスとプライベート IP アドレス (3) IP アドレスの構成 (4) IP アドレスとサブネットマスク (5) TCP と UDP</p> <p>5 WWW と電子メール (1) ドメイン名と DNS (2) HTTP, HTTPS (3) 電子メールのプロトコル</p> <p>6 ファイアウォール (1) ファイアウォールとパケットフィルタリング</p> <p>7 安全な通信① (1) 情報の暗号化 (2) 共通鍵暗号方式 (3) 公開鍵暗号方式</p> <p>8 安全な通信② (1) TLS (2) 電子署名</p>	<p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピュータネットワークを構成する機器とその役割について理解している。 LAN を構成する機器のはたらきについて理解している。 有線 LAN・無線 LAN の規格について理解している。 ネットワークからファイルを転送するときの伝送時間の計算方法について理解している。 回線交換方式とパケット交換方式のメリット・デメリットを理解している。 TCP/IP の4階層モデルの各階層のはたらきを理解している。 IP アドレスの役割と IP アドレスの具体的な利用方法について理解している。 TCP、UDP の特徴(違い)とそれぞれの役割を理解している。 WWW・電子メールのやりとりにおける、IP アドレスとドメイン名の役割を理解している。 HTTP (HTTPS) について理解している。 電子メールのプロトコルについて理解している。 パケットフィルタリングの役割やしきみについて理解している。 情報を暗号化することの必要性を理解している。 暗号化の種類、暗号化のしきみを理解している。 TLS、電子署名では「共通鍵暗号方式」あるいは「公開鍵暗号方式」がどのように利用されているのかを理解している。 <p>(思・判・表) ◆授業プリント、定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> LAN を構成する機器のはたらきを説明できる。 有線 LAN・無線 LAN の各規格について、現在最も利用されているものは何かを説明でき

				<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none">・プロトコルの概念、4階層に分かれている理由について説明できる。・各階層の役割について説明できる。・IP アドレスのネットワーク部・ホスト部の構成を理解し、IP アドレスの割り当てを考えて設計できる。・TCP、UDP の特徴を理解し、どのアプリケーションで利用されるか説明できる。・URL や電子メールアドレスを構成している要素について説明できる。・HTTP と HTTPS の違いについて説明できる。・電子メールで使われる各プロトコルの違いを説明できる。・ファイアウォールで用いられている技術について、メリット・デメリットを説明できる。・各暗号化方式の特徴と違いを判断し、メリット・デメリットについて考え、説明できる。・TLS、電子署名のしくみや特徴について説明できる。 <p>(主体的学び) ◆授業プリント、観察</p> <ul style="list-style-type: none">・現在利用されているインターネットに接続するためのサービスや機器について興味を持ち、理解を深めようとしている。・使用しているネットワーク環境で具体的にどのくらいの通信速度で接続しているかについて興味・関心を持ち、理解を深めようとしている。・プロトコルが取り決められた経緯や TCP/IP だけでなく他のプロトコルに対しても興味関心を持ち、調べようとしている。・4階層モデルの各階層に属するプロトコルの要塞を調べようとしている。・身近にある機器の IP アドレスの構成について関心を持ち調べようとしている。・日常で利用しているサービスでは TCP、UDP のどちらが利用されているのか興味を持ち、利用時に意識しようとしている。・HTTP と HTTPS の違いについて興味関心を持ち、調べようとしている。・普段利用している電子メールサービスがどのようなプロトコルを利用しているかを考えようとしている。・自分たちが身近で利用している情報通信ネットワークで、ファイアウォールの設定がどのようなになっているか調べようとしている。・暗号化の方法の違いについて興味・関心を
--	--	--	--	---

	第9章 情報システム		<p>1 情報システムとは</p> <p>(1) 情報システムとは</p> <p>(2) さまざまな情報システム</p> <p>(3) 情報システムとデータベース</p> <p>2 情報システムの安全性</p> <p>(1) 情報セキュリティの3要素</p> <p>(2) 認証技術</p> <p>(3) ロールフォワード</p> <p>(4) フォールトトレランス</p> <p>3 データベースによるデータの管理</p> <p>(1) データベース管理システム</p> <p>(2) データモデルとリレーショナルデータベース</p> <p>(3) リレーショナルデータベースの構成要素と操作</p> <p>(4) NoSQL</p>	<p>持ち、比較できる。</p> <p>・TLS、電子署名について興味・関心を持ち、その技術をより詳しく知るために調べようとしている。</p> <p>(知・技)◆授業プリント、定期考査</p> <p>・身のまわりにある情報システムのはたらきについて理解している。</p> <p>・情報システムがどのようにしてセキュリティを確保し、その安全性を高める工夫を行っているのか理解している。</p> <p>・データベース管理システムの役割と代表的なデータモデルを理解している。</p> <p>・非構造化データを管理・蓄積するために、RDBMS 以外のデータベース管理システムが使われていることを理解している。</p> <p>(思・判・表)</p> <p>・情報システムが、多様な分野で利用されていることを説明できる。</p> <p>・情報システムのセキュリティの機密性および完全性、可用性の確保がどのように行われているかを説明できる。</p> <p>・簡単なリレーショナルデータベースのしくみと情報セキュリティの3要素に対応した機能について説明でき、必要な情報を取り出すことができる。</p> <p>・NoSQL データモデルの構造を理解し、説明あるいは表現することができる。</p> <p>(主体的学び)◆授業プリント、観察</p> <p>・身のまわりにある情報システムがどのようなしくみで動作しているのか、積極的に調べようとしている。</p> <p>・身のまわりで用いられている情報システムの安全性がどのようにはかられているのか、積極的に調べようとしている。</p> <p>・リレーショナルデータベースと構造化データ、あるいは非構造化データについて、身のまわりの情報システムを例に理解したり、調べたりしようとしている。</p>
1月	第10章 データの活用	教科書 問題集 全対応コース	<p>1 データ分析とは</p> <p>(1) データ分析とは</p> <p>(2) データ分析の流れ</p> <p>2 データの収集と整理</p> <p>(1) オープンデータ</p> <p>(2) アンケート調査</p> <p>(3) データの尺度</p> <p>(4) 外れ値や欠損値などの処理</p> <p>3 データの分析——度数の分析</p>	<p>(知・技)◆授業プリント、定期考査、成果物</p> <p>・データ分析の流れを理解し、説明できる。</p> <p>・全数調査と標本調査のメリット・デメリットについて考えることができる。</p> <p>・データの尺度の分類ごとに、どのようなデータが当てはまるか具体的に説明できる。</p> <p>・分析するデータの種類や分析の目的などに応じて、集計やグラフ化の手法を適切に選択したり工夫したりして利用できる。</p>

			<p>(1) 単純集計とクロス集計 (2) ヒストグラムと箱ひげ図 4 データの分析——2変量の分析 (1) 相関と相関係数 (2) 疑似相関 (3) 直線回帰 5 データの分析——多変量の分析 (1) 相関行列・散布図行列</p>	<p>・相関係数を利用して相関関係を評価することができる。</p> <p>・直線回帰によってデータ間の関係の説明や予測ができる。</p> <p>・行列の中にある相関係数や散布図、ヒストグラムから、変量の特性や相互の関係性を把握することができる。</p> <p>(思・判・表) ◆授業プリント、観察</p> <p>・データ分析やデータサイエンスの必要性について、身のまわりの諸問題と結び付けて考えようとしている。</p> <p>・さまざまな種類のオープンデータを積極的に探し、理解を深めようとしている。</p> <p>・データの集計やグラフ化などを通して作成した図や表から、どのようなことを読み取れるかを積極的に求めようとしている。</p> <p>・相関関係や評価や交絡因子の発見などに自分なりの考えを持ち、直線回帰による関係の説明やデータの予測を工夫することができる。</p> <p>・自分で独自の仮説を立てて、相関行列や散布図行列から示されたデータの意味を分析しようとしている。</p> <p>(主体的学び) ◆授業プリント、定期考査、成果物</p> <p>・データ分析の流れを理解し、説明できる。</p> <p>・全数調査と標本調査のメリット・デメリットについて考えることができる。</p> <p>・データの尺度の分類ごとに、どのようなデータが当てはまるか具体的に説明できる。</p> <p>・分析するデータの種類や分析の目的などに応じて、集計やグラフ化の手法を適切に選択したり工夫したりして利用できる。</p> <p>・相関係数を利用して相関関係を評価することができる。</p> <p>・直線回帰によってデータ間の関係の説明や予測ができる。</p> <p>・行列の中にある相関係数や散布図、ヒストグラムから、変量の特性や相互の関係性を把握することができる。</p>
2月	第11章 法の重要性と意義	教科書 問題集 全対応コース	<p>6</p> <p>1 知的財産の保護と活用 (1) 知的財産権 (2) 著作権 (3) 著作物 (4) 著作者人格権と著作権(財産権) (5) 著作隣接権 (6) 著作権の制限 2 プライバシー権と個人情報の保護</p>	<p>(知・技) ◆授業プリント、小テスト、定期考査</p> <p>・知的財産の種類や各権利の内容について理解している。</p> <p>・個人の持つ権利や個人情報の取り扱いのルールについて理解している。</p> <p>・サイバー犯罪の種類やマルウェアについて理解している。</p> <p>(思・判・表) ◆授業プリント、定期考査</p>

			<p>(1) プライバシー権と肖像権</p> <p>(2) 個人情報とは</p> <p>3 サイバー犯罪と法</p> <p>(1) サイバー犯罪とは</p> <p>(2) サイバー犯罪の分類</p> <p>(3) マルウェア</p> <p>(4) サイバー犯罪にあわないために</p>	<p>・知的財産権制度の必要性を説明できる。</p> <p>・知的財産の適切な利用について判断することができる。</p> <p>・個人に関する情報の取り扱いについて適切な判断ができる。</p> <p>・サイバー犯罪やマルウェアのしくみや手口について説明でき、適切な対処方法を判断できる。</p> <p>(主体的学び) ◆授業プリント、観察</p> <p>・情報社会における法制度のしくみやあり方について興味を持つことができる。</p> <p>・日常的に扱っている情報と個人情報との関連に興味を持ち、理解を深めようとしている。</p> <p>・サイバー犯罪に巻き込まれることについて、自分事として捉えようとしている。</p>
--	--	--	--	---